

SCHEDULE

東京都写真美術館 展覧会スケジュール

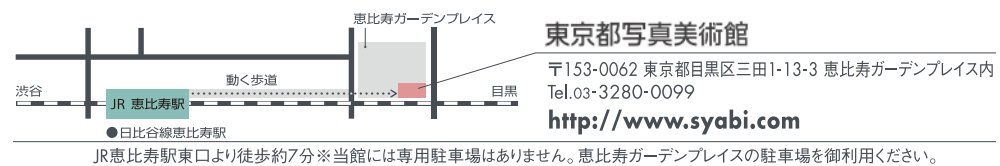
2009	3階展示室	2階展示室	地下1階展示室	1階ホール
4	 夜明けまえ 知られざる日本写真開拓史II 中部・近畿・中国地方編 3月7日(土)~5月10日(日)	 やなぎみわ マイ・グランドマザーズ 3月7日(土)~5月10日(日)	 野町和嘉写真展 『聖地巡礼』 3月28日(土)~5月17日(日)	 ©2008 オニマクリスプラナ製作委員会 ゼラチンシルバーLOVE 3月7日(土)~
5			第34回 2009JPS展 5月23日(土)~6月7日(日)	
6	 コレクション展「旅」 第1部 異境への旅(仮称) 5月16日(土)~7月12日(日)	 プレス・カメラマン・ストーリー 5月16日(土)~7月5日(日)	 世界報道写真展2009 6月13日(土)~8月9日(日)	 ©Ioyo's Camera Film Partners カメラマン 東洋宮武が覗いた時代 4月GW頃~
7		 ジョルジュ・ピゴール展 7月11日(土)~8月23日(日)		
8	 コレクション展「旅」 第2部 異郷への旅(仮称) 7月18日(土)~9月23日(水・祝)		 『Maybe Maybe』(1971年)より 稲越功一写真展(仮称) 8月20日(木)~10月12日(月・祝)	
9	 コレクション展「旅」 第3部 異邦への旅(仮称) 9月29日(火)~11月23日(月・祝)	北島敬三 KITAJIMA KEIZO ESSENTIALS 1975-1991(仮称) 8月29日(土)~10月18日(日)		
10		セバスチャン・サルガド AFRICA(仮称) 10月24日(土)~12月13日(日)	JPA展 10月17日(土)~11月1日(日)	

ご利用案内

- 休館日：毎週月曜日、年末年始
- ※月曜日が祝日または振替休日の場合、その翌日。ただし5/4~5/10、9/21~9/27は無休
- 開館時間：10:00~18:00(木・金は20:00まで) 入館は閉館の30分前まで

割引チケットの販売

お得な割引料金で2会場以上を自由に組み合わせてご覧いただける割引チケットを販売しております。詳しくはチケット売り場でおたずねください。



※本誌編集ページに掲載されている観覧料および商品の価格は、原則として消費税込みの価格です。
東京都写真美術館ニュース「アイズ09」61号●発行日：2009年3月6日／企画・編集：東京都写真美術館事業企画課 普及係●印刷・製本：JTB印刷株式会社
●発行：財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館©2009●本誌掲載の記事、写真の無断複写、複製を禁じます。





大東元 ピストン堀口 1947年

Topics

Press photographers' Story

プレス・カメラマン・ストーリー

プレス写真には情報を「伝えること」「記録すること」だけでなく、普遍的な美しさを携えた作品が存在します。本展では、フォトジャーナリズムと作家性の二面を追究した昭和の花形プレス・カメラマンたちにスポットを当て、その作品の数々をご紹介します。今回は鈴木佳子学芸員に企画意図や出品作家についてお話をききました。

「プレス・カメラマン・ストーリー」展に登場する写真家は1930年代から1970年代前半に朝日新聞社の写真部または出版写真部に在籍したスタッフ・カメラマンです。彼らは新聞以外にも幅広い出版物で活躍していたため、すでに写真界では認められていましたが、彼らが新聞社の出身であるという事実が、私は長い間、気になっていました。なぜかと言うと私自身、初めての就職先が新聞社でしたから、そこでのカメラマンの仕事がどのようなものか少なからず想像がつくからです。日々苛酷な任務に追われ、事件が起これば休みだろうが夜中だろうが関係なく駆けつけ、撮影対象も事件・災害・政治・スポーツ・エンターテインメントなど多岐に渡り、ポートレートやランドスケープ、スティル・

ライフ（物撮り）、舞台写真など、プロフェッショナルとしてあらゆる種類のニーズに対応するテクニックや行動力を備えていなければ務まらないのです。自分の表現を突き詰めようなどと考えるのなら「何をねぼけたことを」と一喝され、情報をいち早く「伝える」「記録する」という目的のために全能力を捧げ、個性を押し殺す。これこそが新聞社のカメラマンの生きる道であると思っていました。ですから、影山光洋や大東元、吉岡専造、船山克、秋元啓一のような新聞社のカメラマンでありながら、フリーのような異彩を放つ存在に関心を持ったのです。

新聞社が写真部をつくりカメラマンを独立した組織体制にしたのは、昭和の初めで、朝日は他社に先駆け、昭和3

表紙：大東元 第29回全国中等学校野球大会（甲子園） 1947年

（1927）年でした。それ以前は写真製版会社にカメラマンがいて、新聞社はそのからにニュース写真を買っていたので、製版までしてもらえるという便利さがあったのです。しかし、各新聞社の競争が激化するにつれスピードが重要になると、自社で製版設備を持ち、優秀なカメラマンを採用するようになりました。最初は写真製版部や社会部、編集部などにカメラマンは所属し、製版や記者を兼ねることもあったようですが、次第に写真取材だけを専門にする写真部が朝日を皮切りに各社、次々に体制を整えて行きました。

このような当時の状況のなかで、影山氏は昭和2（1927）年に朝日に入社しますが、朝日が大学で写真を学んだ本格的なカメラマンを採用する初めてのケースだったそうです。この時期から日本の新聞社におけるカメラマンの存在は活気づいていきます。世界的に見ても1930年代から70年代前半という時代は、ちょうど『ライフ』誌の36年の創刊と72年の廃刊という出来事を間にはさみしますので、ロバート・キャバやユージン・スミスに代表されるカメラマン全盛期に重なるのです。

新聞社が週刊誌などのグラフ雑誌に力を入れるにつれ、写真部だけでは用が足らず、出版写真部という組織が現れます。その出版写真部での、大東氏の活動は目覚ましいものがあります。大東氏はアート・ディレクター的な感性を持ち合わせたカメラマンで吉岡氏や、船山氏とともに、朝日の三羽鳥と称され、『アサヒカメラ』に「新東京シリーズ」や「現代の感情」などのシリーズを中心的に手がけ、優れた作品を発表しています。大東氏が先導して行ったことは新聞社の写真が持つ「無名性」のようなものに対する挑戦だったといえるかもしれません。

大東氏が自分の表現にこだわった「作家性」について考



大東元 石黒敬七 後ろは松田トシ（歌手） 1948年

えるとき、この「無名性」ということばが浮かび上がってきます。新聞をはじめプレスの写真は誰の撮影かは問題にされず、写されている被写体そのものに、注意が向けられることが一般的です。そのことは写真が持つ宿命であり、ここに、写真の原点に立つ重要な鍵があると考えます。本展では、カメラマンたちの際立った活躍に焦点を当てると同時に、新聞社の構造や新聞をはじめとするプレス写真の根源的な使命を明らかにすることによって、表現とは何かという普遍的な問いへの回答を考える場にできればと思っています。

[インタビュー 2009年2月]



吉岡専造 鳩山退場 1956年 「現代の感情」より



影山光洋 小麦の収穫祝い、家族の肖像 「芋っ子ヨッチャンの一生」より 1946年

2F

2階展示室
Exhibition Gallery

友の会無料 | 三越カード割引 | アトレカード割引

5月16日(土) ▶ 7月5日(日)

プレス・カメラマン・ストーリー

□ 一般 500(400)円 □ 学生 400(320)円 □ 中高生・65歳以上 250(200)円

()は20名以上の団体および上記カード会員割引料金
※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※東京都写真美術館友の会会員は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料○主催：東京都 東京都写真美術館
○共催：朝日新聞社

昭和の戦前・戦中・戦後の一時期、いち早く「伝えること」「記録すること」というプレス写真の目的を果たし、さらに作家性を強く意識したカメラマンたちが存在しました。

たとえば、1942年のシンガポール陥落に際し、山下・パーシバル会談の決定的瞬間を撮影した影山光洋は、たった5歳で逝ったわが子の軌跡をアルバム『芋っこヨッチャンの一生』に綴り、見事な家族像を描写しました。また、無個性なニュース写真を撮る一方で、モニタージュ作品を積極的に取り入れたユニークな作品を発表していた大東元は、新聞紙上で「写真と文」をひとりで担当するというスタイルを確立した第一人者でもありました。

新聞社の写真部・出版写真部のカメラマンとして数々のスクープ写真、報道写真を撮り続けていくなか、フリーの写真家たちと同列に並ぶような自由な創作活動の場も大切にされた彼ら。

本展ではプレス・カメラマンとしての使命を果たしながらも、自身の表現にこだわった写真家たちに光を当て、それぞれが背負っているストーリーをご紹介します。平成20年度、新たに加わった影山・大東の作品を含め、歴史に残る当時の新聞なども展示いたしますので、この機会にぜひご覧ください。

∴ 担当学芸員によるフロアレクチャー
第2・4金曜日 14:00～
※本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入り口にお集まりください。
∴ 展覧会関連講演会
詳細は決定次第ホームページで発表します。



大東元 坂本九 1961年



秋本啓一 「銃殺—ある高校生の死」より 1965年

2F

2階展示室
Exhibition Gallery

友の会割引 | 三越カード割引 | アトレカード割引

3月7日(土) ▶ 5月10日(日)

やなぎみわ マイ・グランドマザーズ

yanagi miwa { my grandmothers }

□ 一般 800(640)円 □ 学生 700(560)円 □ 中高生・65歳以上 600(480)円

()は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員、上記カード会員割引料金
※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料○主催：財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館/朝日新聞社
○協賛：株式会社資生堂/凸版印刷株式会社 ○協力：一色事務所

本展では2000年に初発表されると同時に、国内外で高い評価を得たやなぎみわの「マイ・グランドマザーズ」シリーズ全作品を、新作も含めて一挙公開いたします。現在も制作の続くこのシリーズは、若い女性が思い描く50年後の自分の姿を作り上げたもの。作家と被写体が対話を繰り返しながら生み出した作品は、背景、服装、表情にいたるまで綿密に表現されています。やなぎみわは、京都市立芸術大学大学院美術研究科修了後、1993年に京都で初個展を開催し、「エレベーター・ガール」で鮮烈なデビュー

を飾りました。以後、寓話で語り継がれてきた女性像や、現代社会における個々人の問題意識に焦点を当てる作品を制作し続けています。

今年の6月からの第53回「ヴェネツィア・ビエンナーレ」日本館での展示も決定。ニューヨーク、ヒューストンの個展などを経て、さらに活発な制作活動を続けるやなぎみわの最新作を、この機会にぜひ、お楽しみください。

∴ 担当学芸員によるフロアレクチャー 第2・4金曜日 14:00～
※本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入り口にお集まりください。

《TSUMUGI》 2007年 熊本市現代美術館蔵 ©Yanagi Miwa



3F

3階展示室
Exhibition Gallery

友の会無料 | 三越カード割引 | アトレカード割引

3月7日(土) ▶ 5月10日(日)

夜明けまえ

Dawn of Japanese Photography
II. Chubu district, Kinki district & Chugoku district
知られざる日本写真開拓史 II. 中部・近畿・中国地方編

□ 一般 500(400)円 □ 学生 400(320)円 □ 中高生・65歳以上 250(200)円

()は20名以上の団体および、上記カード会員割引料金

※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※東京都写真美術館友の会会員は無料 ※第3水曜日は65歳以上無

○主催：東京都 東京都写真美術館/読売新聞東京本社/美術館連絡協議会

○協賛：ライオン/清水建設/大日本印刷 ○協力：日本大学芸術学部/NECディスプレイソリューションズ株式会社

日本全国の美術館、博物館、資料館等の公開施設を持つ機関が所蔵する幕末～明治時代中期の写真・資料を調査、体系化する「夜明けまえ 知られざる日本写真開拓史」シリーズ第二弾として、「II. 中部・近畿・中国地方編」を開催します。

今回も第一弾の関東編に引き続き、多くの東京未公開のオリジナル作品のほか、カメラ・浮世絵など初期写真に関わる様々な資料が多数登場します。なかでも幕末から明治中期に日本で広く使われた写真術・アンプロタイプは見どころのひとつ。それぞれのアンプロタイプが何を物語っているのかを様式の変遷とともにご紹介いたします。また、鶏卵紙に手彩色を施した美しいパノラマ写真や、いまは見ることのできない日本全国の名所・旧跡を撮った写真は、当時の日本の姿を写し出すだけでなく、写真が人の手に渡り、いま、そこに保存されているという経緯を含めた時間を超えた旅物語を感じさせてくれることでしょう。さらに、



内田九一 《大阪城から見たパノラマ》 撮影年不詳 内田写真株式会社蔵

当時の人々がどのように写真を楽しんだのかを探るべく、名刺判写真を鑑賞するための覗きからくりや、幕末の国産カメラである堆朱カメラなどの資料も数多く展示。展示会の開催に合わせ、当館収蔵の初期写真作品イメージを使って、幕末から明治に使われた印画技法を体験できるワークショップや学芸員によるフロアレクチャーも開催します。芸術表現の成熟へと向かう“夜明けまえ”の写真開拓ストーリーに、思いを馳せてみてはいかがでしょうか。

☺☺☺鶏卵紙プリントワークショップ ※詳細はホームページをご覧ください。当館収蔵の初期写真作品イメージを使って、幕末～明治に使われた印画技法を体験できるワークショップです。

○5月2日(土)、3日(日)
10:30～13:30/14:30～17:30 (申込締切:4月17日12時)

☺☺☺担当学芸員によるフロアレクチャー

第2・4金曜日および5月4日(月・祝)、5月5日(火・祝)、5月6日(水・振)それぞれ16:00～(約1時間程度)
※本展示会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入り口にお集まりください。

B1F

地下1階展示室
Exhibition Gallery

友の会割引 | 三越カード割引 | アトレカード割引

3月28日(土) ▶ 5月17日(日)

野町和嘉写真展「聖地巡礼」

□ 一般 800(640)円 □ 学生 700(560)円 □ 中高生・65歳以上 600(480)円

()は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員、上記カード会員割引料金

※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

○主催：日本経済新聞社 ○共催：東京都写真美術館

○特別協賛：キャンノン株式会社/キャンノンマーケティングジャパン株式会社

○協力：富士フイルム株式会社/コニカミノルタプラザ ○企画：クレヴィス

野町和嘉がサハラ砂漠を訪れ、大地のスケールや過酷な風土を生きる人々の強靭さに魅せられたのは20代半ばのことでした。1995年から2000年にかけては、サウジアラビアからの要請により、イスラム教最大の聖地であるメッカの巡礼を、世界で初めて徹底取材しました。本展は最新作である祈りの川ガンジスを中心に、代表作である「アフリカ」「イスラーム」「エチオピア黙示録」を加えた約150点によって構成。会期中には野町和嘉によるギャラリー・トークも開催されます。

☺☺☺ギャラリートーク
3/28,29 4/11,25,29 5/2,3,4,5,16,17 全日14:00～15:00
◎お問い合わせ ☎クレヴィス 03-5784-2466



霧のなかの沐浴 アラハバード、インド 2007

2F

2階展示室
Exhibition Gallery友の会割引
三越カード割引
アトレカード割引

7月11日(土) ▶ 8月23日(日)

ジョルジュ・ビゴー展 — 碧眼の浮世絵師が斬る明治 —

□ 一般 800円 □ 学生 700円 □ 中高生・65歳以上 600円

○主催：東京都写真美術館/東京新聞

文明開化の時代、急速に近代化する日本の情景を描いたフランス人画家、ジョルジュ・ビゴー。本展では、ビゴーが渡日前や滞日中に描いた挿絵、版画集のほか、撮影用資料として用いた当時の写真や帰国後の作品など約200点を展示します。ジョルジュ・ビゴー 《クロッキー・ジャポネ》 1886年



B1F

地下1階展示室
Exhibition Gallery

5月23日(土) ▶ 6月7日(日)

第34回 2009JPS展

□ 一般 700円
□ 学生・65歳以上 400円(高校生以下無料)○主催：社団法人日本写真家協会
○共催：東京都写真美術館 ○後援：文化庁

1950年に創立した日本写真家協会では、写真文化の振興普及のため、写真愛好家を対象にフォトコンテストを開催し、今年で34回を迎えました。JPS展の出品者からは多くのプロ写真家が生まれています。

◎お問い合わせ ☎日本写真家協会 03-3265-7453

3F

3階展示室
Exhibition Gallery

友の会無料 | 三越カード割引 | アトレカード割引

5月16日(土) ▶ 11月23日(月・祝)

コレクション展「旅」(仮称)

第1部「異境への旅」 第2部「異郷への旅」 第3部「異邦への旅」

□ 一般 500(400)円 □ 学生 400(320)円 □ 中高生・65歳以上 250(200)円

()は20名以上の団体および、上記カード会員割引料金

※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※東京都写真美術館友の会会員は無料 ※第3水曜日は65歳以上無

○主催：東京都 東京都写真美術館

旅は写真の黎明期から常に関わり合いの深いテーマでした。日本においても幕末に写真が渡来して以来、様々な視点で旅と関わり合いの深い写真が残されています。本展では写真の黎明期から現代に至るまで「旅」というテーマのなかから生み出された多種多様な表現を持つ作品を、

3つの視点に分けて展示を構成します。出品作品はすべて当館のコレクションから構成します。写真ファンから歴史や旅行に興味のある方にまで幅広くお楽しみいただける展示で、今まで出品のチャンスが少なかった稀少な名品も数多くご紹介いたします。

第1部「異境への旅」

5月16日(土) ▶ 7月12日(日)



撮影者不詳 《桜花と人力車》 1870年

第1部「異境への旅」では、幕末から明治半ばにかけて、極東への憧れをもって日本を訪れた外国人旅行者に向けてお土産用に製作された手彩色写真(横浜写真)を中心として展示を構成します。併せてヨーロッパから極東へと至る旅行写真の系譜もたどります。そこには写真術の旅立ちが見取れると同時に、日本がどのように「世界」の中に立ち現れてきたかがたどれるはずです。

◆第1部の主な出品作家
フェリーチェ・ベアト、日下部金兵衛、ライムント・スティルフリード、ジョン・トムソンほか

第2部「異郷への旅」

7月18日(土) ▶ 9月23日(水・祝)



柳沢信 《岩国にて》「片隅の光景」より 1972年

第2部「異郷への旅」では、日本人が捉えた日本の風景を中心に展示します。観光が日常化し、カメラは旅に出る時の必需品となっていきます。しかし次第に、ただ単に旅の記念として撮影するだけではなく、写真を通して内的な心象風景を示す作品が現れてきます。見なれた現実を異郷として眺める視線は、現実の風景を捉える視線から、自己を振り返るための風景への旅を創出してゆきます。

◆第2部の主な出品作家
柳沢信、須田一政、内藤正敏、荒木経惟ほか



渡辺義雄 《ローマ》 1956年



渡辺義雄 《ヴァチカン市国》 1956年

第3部「異邦への旅」

9月29日(火) ▶ 11月23日(月・祝)

◆第3部の主な出品作家
福原信三、中山岩太、安本江陽、木村伊兵衛、渡辺義雄、名取洋之助、奈良原一高ほか

第3部「異邦への旅」では、日本の写真家たちが捉えた海外への視線を辿ります。ビクトリアリズムの影響を留めた福原信三によるパリの風景から、渡辺義雄による生き生きとした海外の街のスナップショットといった、日本の写真史を確立させた名写真家たちによる新鮮な異国での光景を、異邦人として旅した彼ら日本人写真家たちの視覚を通して、鮮やかに蘇らせます。

世界報道写真展2009

□ 一般 700(560)円 □ 学生 600(480)円 □ 中高生・65歳以上 400(320)円

()は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員、上記カード会員割引料金
※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

○主催：世界報道写真財団/朝日新聞社 ○共催：東京都写真美術館
○協賛：キャンノン株式会社/キャンノンマーケティングジャパン株式会社/ティ エヌ ティ エクスプレス株式会社

1955年オランダで設立された世界報道写真財団が毎年開催している「世界報道写真コンテスト」の入賞作品を集めて展示する世界報道写真展2009が、今年も東京都写真美術館で開催されます。このコンテストには前年1年間に撮影された写真を対象に、プロの写真家であれば誰でも参加できるので、今年の世界124カ国から5,508人が応募し、作品数は96,268点に上りました。これは52回の歴史の中で最高の数字です。特に中国、インドからの応募が急増、経済発展に比例して、社会を見つめる写真家の活躍場所が増えていることを示しています。本年は日本人写真家の2人が入賞を果たしました。ケニア在住の千葉康由さんとアメリカ在住の山口元さんです。それぞれが追い求めるテーマでの受賞でした。

昨年アメリカに端を発した金融危機は先進国にも深刻な社会不安を呼び起こし、世界中でこれまで経験したことのないような社会状況がうまれています。戦争、紛争は収まることはありません。アフリカの多くの国では今も続く内戦が民衆の生活を圧迫し、飢餓や虐殺を招いています。多くの犠牲者は一般の市民であり子どもたちです。地球上のいろいろな場所に現れる問題に写真家たちは最前線に立ち、その背景も見据え、真相を表現しようと試みます。1枚の写真に込められたフォトジャーナリストの思いが、同じ時代を生きている私たちに迫ってきます。



01

01 「スポーツ・アクション」の部 単写真2位
マーク・ダッズウェル/オーストラリア、Getty Images
北京五輪陸上男子200メートルで優勝したウサイン・ボルト(=8月20日)

02 「スポットニュース」の部 単写真1位
陳慶港/中国、杭州日報
四川大地震の生存者を搬送する救助隊(=5月14日、四川省北川県)

03 「自然」の部 単写真1位
カルロス・F・グティエレス/チリ、パタゴニア・プレスからディアリオリ・テルセラ紙
チャイテン山の噴火(=5月2日、チリ)

04 2008年世界報道写真大賞
アンソニー・スアウ/アメリカ、タイム誌向け
アメリカの経済危機一立ち退きを言い渡された住民が家に残っていないことを確認してまわる警察官ロバート・コール(=3月26日、オハイオ州クリーブランド)

05 「ニュースの中の人びと」の部 単写真1位
千葉康由/日本、AFP通信
部族間の対立(=3月1日、ケニア西部)

06 「ニュースの中の人びと」の部 組写真1位
カリー・シェル/アメリカ、オーロラ・フォトからタイム誌
バラク・オバマの大統領選挙戦(=1月から10月)

※写真はいずれも2008年撮影



02



03



04



05



06

平成20年度は882点を新規収蔵しました。

平成20年度、東京都写真美術館は新たに882点(購入185点、寄贈697点)の作品を収蔵いたしました。収蔵作品は、当館学芸員が中心となって作品リストを作成し、外部委員からなる収集委員会の検討を経て東京都に承認されました。

都収蔵予算約4,000万円、維持会員(本紙13ページ)の会費による振興会計予算約1,300万円が購入にあてられました。そのなかには柳沢信、森村泰昌をはじめ、平成21年度の展覧会にいち早く展示される作品もあります。また中川政昭や菊池東陽など、ご遺族のご厚意によりまとまったコレクションをご寄贈いただくことができました。平成20年度収蔵作品リストは、写真美術館ホームページに3月下旬ごろアップする予定です。今後も、写真美術館は、独自の企画で収蔵作品を有効に活用した展覧会を積極的に開催してまいります。



柳沢信 シリーズ「二つの町の対話」1966年より



森村泰昌 「なにものかへのレクイエム(ASANUMA1)1960.10.12-2006.4.2」2006年

東京都写真美術館がJAFRAアワード(総務大臣賞)の平成20年度受賞施設に決定しました!



このたび東京都写真美術館が民間発想を活かした運営と、年間約25本の多彩な展覧会開催で賑わいある美術館を実現したことによってJAFRAアワード(総務大臣賞)の平成20年度受賞施設に決定しました。今年で5回目となるこの賞は、地域における創造的で文化的な表現活動のため、環境づくりに特に功績のあった公立文化施設が顕彰されます。全国に広く紹介されることにより、ふるさとづくりの推進に寄与することが目的です。

※谷川健二東京都副知事(左)と共に表彰される福原義春写真美術館館長

1F 1階ホール Hall Cinema Information

友の会割引 | 三越カード割引 | アトレカード割引
東京都写真美術館で観る映画シリーズ

Film Series Vol.45 ゼラチンシルバーLOVE

24時間とられる女。女から一時も目を離さない男。本能と性に翻弄される男と女の姿—

無機質な部屋から向かいの女をビデオカメラで監視する男。そして撮られ続ける美しい女。ある日、男は交通事故の現場に出くわす。車の運転手は流血して動かない。野次馬の中に、ソフトクリームをなめながら、それを見つめる女を発見する。女の監視記録であるビデオテープを“依頼人”に渡し、男は尋ねる「あの女はいったい何者なんですか?」

ファンタム・フィルム 03-5771-2045



©2008 オニマクスプラナ製作委員会
○上映スケジュール: 3月7日(土)~
○上映時間: 11:00/13:00/15:00/17:00/19:00
○料金: 一般 1,800円/学生 1,500円
中学生以下・シニア(60歳以上) 1,000円

Film Series Vol.46 東洋宮武が覗いた時代

撮った、生きた、戦った— 日本人強制収容所の真実と日系人の歴史を描く感動のドキュメンタリー

第二次世界大戦中、アメリカ政府は市民権を持つ日系人、在米日本人を強制的に収容所に押し込めた。隠し持った手製のカメラでその実態を写し出したのが、東洋宮武、その人である。アメリカにも日本にも属することが許されなかった日系人たちの悲劇を、東洋がとらえた500枚の写真とともに、20世紀を代表する写真家・アンセル・アダムスとエドワード・ウェストンらの作品で証言する。

フィルムヴォイス 03-5226-0168



©Toyo's Camera Film Partners
○上映スケジュール: 4月GW頃~
○上映時間: 11:00/13:30/16:30/19:00
○料金: 一般 1,800円/学生 1,500円
中学生以下・シニア(60歳以上) 1,000円

museum shop 1F

NADIFF x IO ミュージアムショップ
『ナディッフ バイテン』
◎お問い合わせ: 「ナディッフ バイテン」
営業時間 10:00-18:00(木・金は20:00、土は18:30)
直通 03-3280-3279

candles
火を灯すだけでなく、インテリアや装飾品としても愉しめる、個性的なMAGIERAのキャンドル。すべて作家による手づくりで、色によって香りも違います。
スワン 1,995円(税込)
その他 1260円(税込)

www.syabi.com/shop/shop.html

cafe 1F 2F

chambre claire カフェ
『シャンブル クレール』
~明るい部屋~
◎お問い合わせ: カフェ「シャンブル クレール」
営業時間 【1階】10:00-20:00(日曜日は18:00まで) 【2階】10:00-18:00
直通 03-5798-2218

croque-monsieur
定番メニューのクロックムッシュがさらにおいしくなりました。ペシャメルソースの旨味がひき立ちます。
クロックムッシュ
750円(税込)

www.syabi.com/cafe/cafe.html

維持会員
Corporate Members

東京都写真美術館の活動をご支援いただくため、次の企業・団体に維持会員としてご入会いただきました。
※詳しくはホームページをご覧ください。http://www.syabi.com/member/member.html

TOKYO METROPOLITAN MUSEUM OF PHOTOGRAPHY

特別支援会員

- キヤノン株式会社
- 株式会社資生堂
- 株式会社キタムラ
- 大日本印刷株式会社
- 東京電力株式会社
- 凸版印刷株式会社
- 株式会社ニコン
- 富士フイルム株式会社
- 株式会社リコー

維持会員

- 株式会社I&S BBDO
- 株式会社アイテム
- 株式会社アサツー ディ・ケイ
- 旭化成株式会社
- 朝日新聞社
- 朝日生命保険相互会社
- アサヒビール株式会社
- 朝日放送株式会社
- 株式会社アシェット婦人画報社
- アップルジャパン株式会社
- 株式会社アートよみうり
- 株式会社アマナ
- イー・キャランティ株式会社
- 株式会社岩波書店
- エスエス製薬株式会社
- 株式会社NHKアート
- 株式会社NHKエデュケーション
- 株式会社NHKエンタープライズ
- 株式会社NHKプロモーション
- 株式会社NITDデータ
- 株式会社NITDコム
- NITD都市開発株式会社
- 株式会社エフエム東京
- エフエム販売株式会社
- エルメスジャパン株式会社
- 株式会社大塚商会
- オムロン株式会社
- オリックス株式会社
- オリンパスイメージング株式会社
- 株式会社オンワード樺山
- 科研製薬株式会社
- カンオ計算機株式会社
- 鹿島建設株式会社
- 株式会社角川書店
- カールツーク株式会社
- カルピス株式会社
- 株式会社カンパセーション アンド カムパニー
- 株式会社キョクテ科学研究所
- キッコーマン株式会社
- 株式会社紀伊屋書店
- キハラ株式会社

- キヤノンマーケティングジャパン株式会社
- 株式会社キーンコミュニケーションズ
- 共同印刷株式会社
- 社団法人共同通信社
- 協和発酵キリン株式会社
- キリンホールディングス株式会社
- 株式会社弘亜社
- 株式会社講談社
- 株式会社光文社
- 株式会社国書刊行会
- 株式会社コスモスイートナショナル
- 株式会社コーセー
- コダック株式会社
- コニカミノルタホールディングス株式会社
- 株式会社ザ・アール
- サッポロホールディングス株式会社
- 産経新聞社
- サントリー株式会社
- 株式会社サンローズ
- 株式会社ジェイアール東日本企画
- ジェイティービー印刷株式会社
- 株式会社シグマ
- 株式会社実業之日本社
- 清水建設株式会社
- 株式会社写真弘社
- シャネル株式会社
- 株式会社集英社
- 株式会社主婦と生活社
- 株式会社主婦の友社
- 株式会社小学館
- 松竹株式会社
- 信越化学工業株式会社
- 株式会社新潮社
- 株式会社スタジオアリス
- 株式会社スタジオジブリ
- 住友化学株式会社
- 株式会社生活の友社
- セイコーホールディングス株式会社
- 株式会社青春出版社
- 積水ハウス株式会社
- セントラル警備保障株式会社
- 全日本空輸株式会社
- ソニー株式会社
- 第一三共株式会社
- 第一法規株式会社
- ダイキン工業株式会社
- 株式会社ダイケングループ
- 大成建設株式会社
- 株式会社竹中工務店
- 株式会社タムロン
- 株式会社淡交社
- 株式会社丹青社
- 株式会社中央公論新社
- 中外製薬株式会社
- 株式会社ティ・ピー・オー

- 株式会社テー・オー・ダブリュー
- 株式会社テレビ朝日
- 株式会社テレビ東京
- 電源開発株式会社
- 株式会社電通
- 東亜建設工業株式会社
- 東京ガス株式会社
- 東京急行電鉄株式会社
- 東京工芸大学
- 東京新聞・中日新聞社
- 株式会社東京ステア
- 東京造形大学
- 東京総合写真専門学校
- 東京テアトル株式会社
- 東京都競馬株式会社
- 株式会社東京ドーム
- 株式会社東京美術倶楽部
- 株式会社東京放送
- 東京メトロポリタンテレビジョン株式会社
- 株式会社東芝
- 東宝株式会社
- 株式会社東北新社
- 株式会社徳間書店
- 図書印刷株式会社
- 戸田建設株式会社
- トヨタ自動車株式会社
- 日外アソシエーツ株式会社
- 日油株式会社
- 日産自動車株式会社
- 株式会社日本カメラ社
- 日本経済新聞社
- 日本興亜損害保険株式会社
- 株式会社日本広告社
- 社団法人日本広告写真家協会
- 日本写真印刷株式会社
- 社団法人日本写真家協会
- 社団法人日本写真協会
- 日本写真芸術専門学校
- 日本写真作家協会
- 社団法人日本写真文化協会
- 日本大学芸術学部
- 日本たばこ産業株式会社
- 日本テレビ放送網株式会社
- 日本ハム株式会社
- 日本ビューレット・バカード株式会社
- 株式会社ニッポン放送
- 日本ロレックス株式会社
- 株式会社ニューアートディフュージョン
- 野崎印刷製菓株式会社
- 株式会社博報堂
- 株式会社バス・コミュニケーションズ
- パナソニック株式会社
- 株式会社林原生物化学研究所
- びあ株式会社
- 北海道 写真の町東川町

(平成21年2月現在・五十音順)

友の会

東京都写真美術館では、随時新規会員の募集をしています。展覧会のご招待・割引、上映映画の割引をはじめ、たくさんの特典をご用意している他、関連施設での割引もございます。開館時間中(10:00~18:00、木・金は20:00まで)に当館1階チケットカウンター横「友の会カウンター」にてご入会いただけます。皆さまのご入会を心よりお待ちしております。

年会費	
個人会員	2,000円
家族会員同伴者1名まで	3,000円
シルバー会員(65歳以上の方)	1,000円

- 受付は当館1階チケットカウンター横の「友の会カウンター」のみとなっております。
- 会員証の有効期限は、翌年の同月末日までです。 ※詳細は当美術館までお問い合わせください。 TEL:03-3280-0099

友の会特典	特典内容
収蔵展・映像展	無料 ※会期中はいつでもご覧いただけます※家族会員の方は、同伴者1名まで無料
企画展・共催展	割引 ※御利用いただけない場合もございます
ミュージアムショップ	5%引き ※一部商品は除きます
その他	○写美ニュース「eyes」送付 ○1階ホール(実験劇場)の割引 ○ロコ渋谷店で1,000円以上のお買上につき5%割引(洋書・洋雑誌)など

保存版 写真の技法解説

解説:金子隆一(東京都写真美術館 専門調査員)



古写真から現代作家まで、幅広くご紹介する2009年の展覧会。展示作品に添えられている「技法」を知っていると、作品の時代背景が想像でき、鑑賞の幅もより広がります。ここに主な技法をご紹介しますので、裏面のスケジュールといっしょに保存してご活用ください。

Technique 01 ダゲレオタイプ Daguerreotype 1830年代末~1860年代前期	ルイ・ジャック・マンデ・ダゲール(仏)が1839年に公表した世界最初の実用的な写真術。銀メッキをした銅板にヨウ素の蒸気をあてて光に感じるようにして撮影します。現像は水銀の蒸気で行います。日本では「銀板写真」と称していました。大変シャープな画像ですが、一回の撮影で1点しか作ることはできません。
Technique 02 アンブロタイプ Ambrotype 1850年代初期~1880年代初期	フレデリック・スコット・アーチャー(英)が1851年に発明した、ガラス板に感光乳剤を製して、それが乾かない内に撮影・現像をする湿式コロロディオン方式による写真術。通常はネガを作るための方式ですが、ガラス板ネガをそのままポジとして見るのがアンブロタイプです。この方式によるネガ像は光のあたったところが灰白色になるので、ガラス板の下に黒い布などを敷くとポジ像として見えてきます。
Technique 03 鶏卵紙 Albumen paper 1850年~1890年代中期	ルイ・デジレ・ブランカール・エヴラル(仏)が、1850年に発明をした19世紀を通して最も一般的に使われた印画紙。卵の白身に食塩を混ぜ紙に塗り、乾いた後に硝酸銀溶液を塗り、光に感じるようにします。ネガを密着させ、太陽の光で焼き付けると赤褐色の画像が現れます。現像は不要です。日本を訪れた外国人観光客におみやげとして売られた「横浜写真」は、この上にカラー写真と見まごうばかりの手彩色がなされています。
Technique 04 ゼラチン・シルバー・プリント Gelatin silver print 1880年代中期~現在	19世紀末に発明され、今日でも普通に使われている白黒写真の印画紙の総称。ゼラチンに臭化銀などの光に感じる物質を混ぜ、紙に塗って乾かしますが、普通は工場で製造されています。この印画紙はとても光に感じやすいので、暗室で感光させたあとと現像液に入れて現像します。この印画紙の出現によって小さいネガからの引き伸ばしが簡単になりました。
Technique 05 プラチナプリント Platinum print 1880年代~1920年代	ウィリアム・ウィリス(英)が1873年に考案しました。画像がプラチナで形成されているので変退色しにくく、格調高い深みのある豊かな階調で再現できるという特徴があります。光に感じる鉄の化合物を紙に塗り、ネガを密着させ太陽の光で焼き付けます。現像をする中で鉄の化合物をプラチナに置き換えて画像とします。一度はすたれてしまいましたが、現代写真家はその特徴に注目し、今日の印画法として使われるようになりました。
Technique 06 銀色素漂白方式印画 Silver dye bleach print 1960年代~現在	カラー・ボジから直接にカラー印画をつくる方式の総称で、これまでは、1963年にスイスのチバガイギー社が開発した商品名である「チバクローム・プリント」と通称されていました。色素をあらかじめ含んでいる三つの感光乳剤層をもつ印画紙で、補色にあたる部分を漂白してカラーの画像をつくります。光が全くあたらなかった部分は黒くなってしまいます。
Technique 07 発色現像方式印画 Chromogenic print 1940年代~現在	カラー・ネガからカラー印画をつくる方式の総称で、これまではコダック社の商品名である「タイプCプリント」と通称されていたものです。発色剤(カブラー)を含んだ感光材料を三層にした印画紙で、現像をする過程で発色させてカラーの画像をつくるものです。

※年代は、その技法が多く使用された時期をあらわしています。